

総合型選抜（A日程・B日程・C日程）

■募集人員 A日程・B日程・C日程 計25名

■出願資格

下記の1～3のいずれかに該当し、かつ4を満たしている者

1. 高等学校または中等教育学校を卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者
2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び2027年3月修了見込みの者
3. 学校教育法施行規則第150条及び第154条の規定により大学の入学資格を有する者または2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者
4. 合格した場合に本学への入学を確約できる者（専願）

※外国籍の方で2027年3月31日までに日本語能力検定N2相当（授業時間600時間以上）の日本語能力を有していることを証する資料を提出できる方は、総合型選抜での出願が可能です。なお、外国籍の方で出願をご検討の方は、出願開始日の1か月前までに入試課へご相談ください。

■選抜方法

小論文（100点）、面接（100点）の結果及び「調査書」「志望理由書」を総合的に審査し、計200点満点で可否を判定します。「調査書」については、本学科のアドミッション・ポリシーに基づいて評価します。

※小論文はP17～P19記載の各学科の事前課題（テーマ1,2）のうち、どちらかが出題されますので、両テーマについて事前に十分学習してください。また、その内容は面接で質問されることもあります。なお、事前に学習した記入物等は試験時間中の持ち込みはできません（事前に学習した記入物等は提出不要）。

■出願方法・出願書類について

P55～P63をご参照ください。

■入試日程

入試	出 願 期 間	試 験 日	合 格 発 表	入学手続期限
A日程	2026年9月7日(月) ～9月17日(木)	2026年10月10日(土)	2026年11月5日(木)	2026年11月19日(木)
B日程	2026年11月12日(木) ～11月26日(木)	2026年12月12日(土)	2026年12月22日(火)	2027年1月22日(金)
C日程	2027年1月28日(木) ～2月8日(月)	2027年2月18日(木)	2027年3月3日(水)	2027年3月10日(水)

■試験場・実施時間

試 験 場	実 施 時 間
八戸学院大学	1. 受 付 9:15～9:45 2. 小論文 10:00～11:00 3. 面 接 11:15～

■特記事項

総合型選抜合格者には入学前課題があります。

総合型選抜（資格特待生選抜）

■募集人員 A日程・B日程・C日程 若干名

◆特典 出願書類一式提出時までに取得した資格が、《表1》の条件を満たしている場合、以下のような学納金免除の特典を受けることができます。

資格特待生区分1 年額 670,000円

資格特待生区分2 年額 490,000円

資格特待生区分3 年額 310,000円

《表1》

対象の資格	区 分	特待生条件
基本情報技術者 介護福祉士 介護職員初任者研修 a ・実用英語技能検定 ※その他英語の検定試験（注1） ・日本漢字能力検定 ・実用数学技能検定 ・日商簿記検定	資格特待生区分1 《授業料免除》	左記資格の中から下記いずれかの組合せで資格所持 ・aから準1級以上を1つ ・aから2級を2つ ・aから2級を1つと別資格aから準2級以上を2つ ・aから準2級以上を2つとbから1つ ・aから準2級以上を1つとbから2つ ・bから3つ ・基本情報技術者とaから準2級以上を1つ ・介護福祉士とaから準2級以上を1つ
b ・ITパスポート ・危険物取扱者甲種 ・全商簿記実務検定1級 ・全商情報処理検定(ビジネス情報部門)1級 ・全商情報処理検定(プロگرامming部門)1級 ・全工協会計算技術検定1級 ・全工協会情報技術検定1級 ・全工協会パソコン利用技術検定1級	資格特待生区分2 《授業料半額＋教育費半額免除》	左記資格の中から下記いずれかの組合せで資格所持 ・aから2級を1つと別資格aから準2級以上を1つ ・aから準2級以上を3つ ・aから準2級以上を1つとbから1つ ・bから2つ ・基本情報技術者 ・介護福祉士 ・介護職員初任者研修とaから準2級以上を2つ
	資格特待生区分3 《教育費免除》	左記資格の中から下記いずれかの組合せで資格所持 ・aから2級を1つ ・aから準2級以上を2つ ・bから1つ ・介護職員初任者研修とaから準2級以上を1つ
(注1) その他英語の検定試験（GTEC等）の各スコアの該当区分については入試課までお問い合わせください。また、英語資格を複数所持していた場合、上位資格のみ対象となります。 ※原則として、該当する資格は出願時までに取得したものが対象となります。なお、出願後（出願書類一式提出後）に取得した資格により、資格特待生区分を変更することはできません。		

■出願資格

総合型選抜と同様です。P14をご参照ください。

■選抜方法

総合型選抜（P14）の選抜方法の内容（200点）に加え、「志望理由書」「資格記入書」に基づいた面接（100点）を計300点満点として実施し、意欲・能力・諸活動などを総合的に審査し可否を判定します。

■出願方法・出願書類について

P55～P63をご参照ください。

■入試日程

入試	出 願 期 間	試 験 日	合 格 発 表	入学手続期限
A日程	2026年9月7日(月) ～9月17日(木)	2026年10月10日(土)	2026年11月5日(木)	2026年11月19日(木)
B日程	2026年11月12日(木) ～11月26日(木)	2026年12月12日(土)	2026年12月22日(火)	2027年1月22日(金)
C日程	2027年1月28日(木) ～2月8日(月)	2027年2月18日(木)	2027年3月3日(水)	2027年3月10日(水)

■試験場・実施時間

試 験 場	実 施 時 間
八戸学院大学	1. 受 付 9:15～9:45 2. 小論文 10:00～11:00 3. 面 接 11:15～ ※総合型選抜面接終了後、資格特待生 選抜面接を実施します。

■特記事項

- ・総合型選抜（資格特待生選抜）合格者には入学前課題があります。
- ・原則として、該当する資格は出願時までに取得したものが対象となります。なお、出願後（出願書類一式提出後）に取得した資格により、資格特待生区分を変更することはできません。
- ・総合型選抜資格特待生は在学期間継続を原則とするが、特待生として相応しくないと認められる場合は停止することがあります。
- ・総合型選抜資格特待生として不合格となった場合は、総合型選抜志願者として可否を判定します。

総合型選抜（資格特待生選抜含む）事前課題

事前課題（テーマ1,2）のうち、どちらかが出題されますので、両テーマについて事前に十分学習してください。また、その内容は面接で質問されることもあります。なお、事前に学習した記入物等は試験時間中の持ち込みはできません（事前に学習した記入物等は提出不要）。

◆テーマ1

全国学校図書館協議会は、全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について、毎年調査を行っています。毎年5月の1か月間における平均読書冊数の調査結果(図1)を見ると、小学生(4年生～6年生)と中学生の読書冊数は年々増加傾向にあることが分かります。その一方で、高校生の読書冊数には大きな変化が見られず、小学生や中学生に比べて読書冊数が少ない傾向にあります。

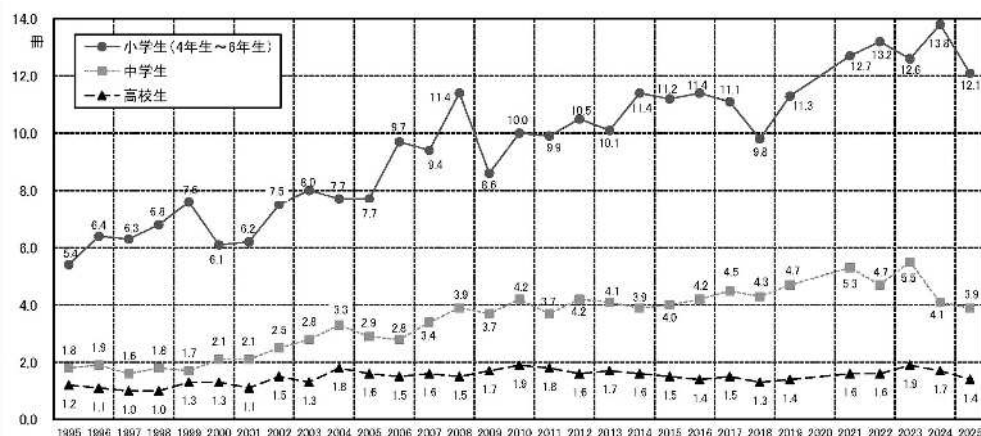


図1. 過去31年の5月1か月間の平均読書冊数の推移

(第70回学校読書調査(2025年)概要(全国学校図書館協議会HP掲載)より引用)

また、5月の1か月間で1冊も本を読まなかった「不読者」の割合を示した図2においても、高校生は小学生や中学生と比べて不読者の割合が高くなっています。2025年の調査では、半数以上(約55.7%)の高校生が1か月間に1冊も本を読まなかったという結果が出ています。

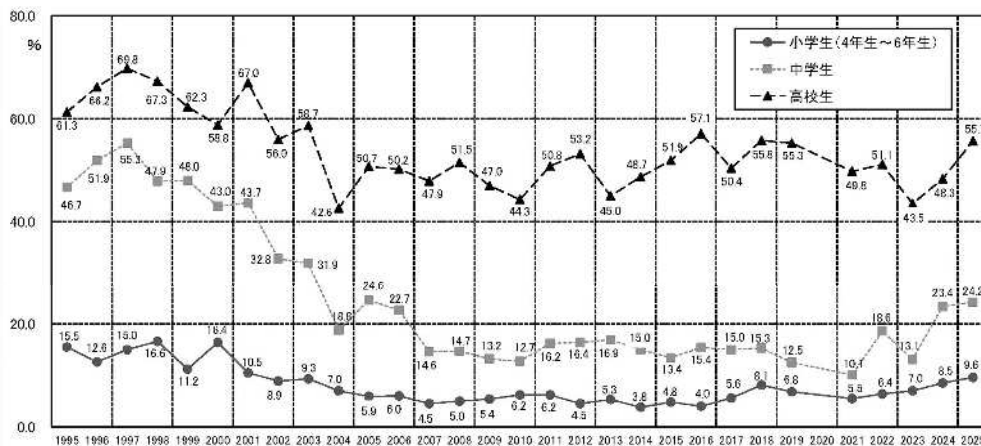


図2. 過去31年の不読者(※)の割合の推移

※ 5月1か月間に読んだ本が0冊の児童生徒を「不読者」と呼んでいます。

(第70回学校読書調査(2025年)概要(全国学校図書館協議会HP掲載)より引用)

このように高校生は、小学生や中学生に比べて読書冊数が少なく、読書習慣のない生徒が多いことが分かります。そこで、なぜ高校生は読書冊数が少なく、読書習慣のない生徒が多いのか、その理由を考察してください。あわせて、読書冊数が少ないことによって、心(知的能力、認知機能、日常の気分など)にどのような悪影響が及ぼされる可能性があるか、数点挙げてください。そして、高校生以上の年代を対象として、読書習慣を身に付けさせるために各地でどのような取り組みが行われているかを新聞等で調べ、あなたが印象に残った記事などの内容を紹介してくだ

さい。その上で、紹介した取り組みをさらに良いものにしていくためにはどのような改善を加えるべきか、あなたの意見を述べてください。なお、字数は600字から800字程度とします。

参考文献

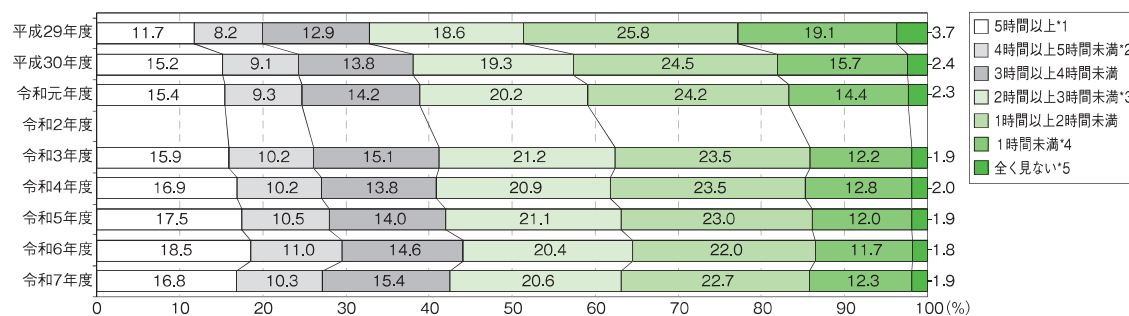
公益社団法人全国学校図書館協議会 「学校読書調査」の結果（第70回学校読書調査（2025年））
<https://www.j-sla.or.jp/material/research/dokusyotyousa.html>

◆テーマ2

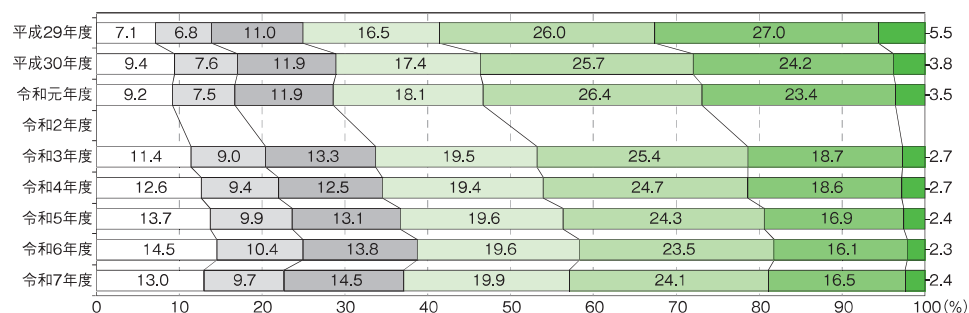
毎年スポーツ庁が実施している全国体力・運動能力、運動習慣等調査によると学習以外でテレビ、DVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコン等の画面を視聴する時間（以下:スクリーンタイム）が近年増加傾向にあることがうかがえます。（図1）

小学校

●男子

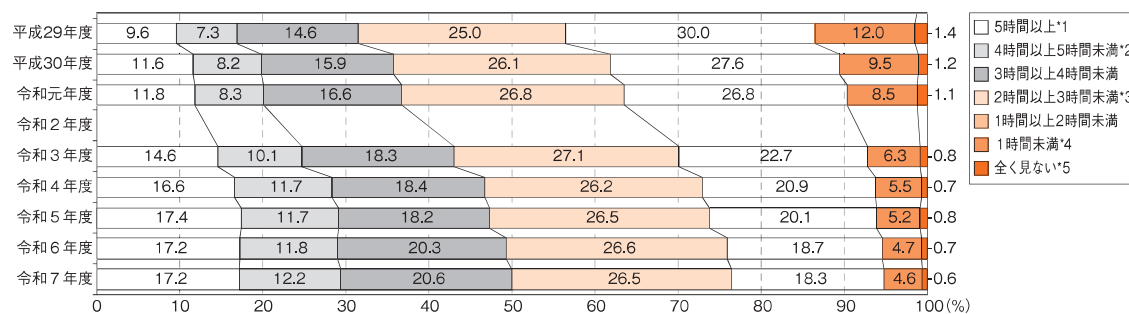


●女子



中学校

●男子



●女子

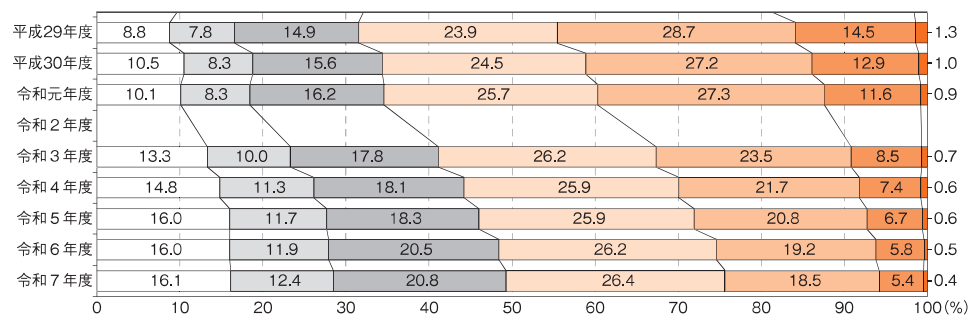


図1. スクリーンタイムの経年変化

（令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 報告書 [図11]スクリーンタイムの経年変化を改変）

このようなスクリーンタイムの増加は、近年児童や生徒の健康に悪影響を与える可能性があることが分かってきています。どのような影響を与える可能性があるのか、数点あげてください。そして、あげた健康への悪影響を防ぐために、各地でどのような取り組みが行われているか新聞等で調べ、あなたが印象に残った記事等の内容を紹介してください。その上で紹介してくれた取り組みをさらに良いものにしていくためにはどのような改善を加えるべきか、あなたの意見を述べてください。字数は600字から800字程度とします。

参考文献

スポーツ庁 令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果 調査結果の総括
(https://www.mext.go.jp/sports/content/20251216-spt_sseisaku02-000046317_000501.pdf)